

第 60 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和元年 7 月 26 日（金）13：30～13：50

場 所：福井県庁 10 階 総合防災センター

出席委員：鞍谷委員長、三島委員、泉委員、黒崎委員、田島委員、近藤委員、玉川委員

議 題：

（1）原子力発電所周辺の環境放射能調査について

・平成 30 年度 第 4 四半期（平成 31 年 1 月～3 月）報告

（2）発電所の運転および廃止措置状況について

・平成 31 年 3 月～令和元年 7 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、事務局より説明
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配付予定

（原子力発電所周辺の環境放射能調査結果（平成 30 年度 第 4 四半期））

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 一部の環境試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベル^{※1}に比べ、はるかに低い濃度であった。

（発電所の運転および廃止措置状況（平成 31 年 3 月～令和元年 7 月））

- ・ 今期間の運転状況は、計画外の原子炉停止や出力抑制はなかった。現在、県内発電所 7 基^{※2}が定期検査を実施している。
- ・ 当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象はなかった。

※ 1：発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値：年間 0.05 ミリシーベルト

※ 2：敦賀発電所 2 号機、美浜発電所 3 号機、大飯発電所 1、2、4 号機、高浜発電所 1、2 号機

（主な質疑）

- Q. 県の放射線観測局等の通信回線を二重化することだが、伝送方式は同じなのか。その場合、共通要因故障に対応できないのではないか。
- A. 有線と衛星であるなど違う方式での二重化である。
- Q. これまで、電源の二重化、データセンター拠点を 2 つ設けているが、これに加え、今回通信方法も二重化するということになるのか。
- A. その通り。

以 上